

先進地調査地域 沖縄県平良市 健康ひらら21

回答者： 平良市企画課 梶原 健二調整官
平良市企画課 黒澤 美香 担当
平良市保健予防課 武島 和美係長（保健師）企画課と別日程
平良市保健予防課 仲宗根 美佐子（保健師）同上地方健康増

報告者 沖縄県中部福祉保健所
国吉 秀樹

調査時期 平成17年1月26日

◎ [健康日本21 地方計画の策定・推進プロセス]

調査の視点（ポイント）

<計画策定プロセス>

○策定組織

- ・策定組織には、必要な関係者が含まれていましたか？

⇒保健、医療関係だけでなく、「まちの部会」「自然の部会」には、教育関係、商工会など、市民のリーダーが含まれていた。

- ・策定組織には、住民が含まれていましたか？

⇒自治会、環境NPO お母さん代表など

特に、重要と考えた住民組織・団体は？

⇒小学校の養護教諭、医師会の担当理事

- ・策定組織では、検討や議論等を活発に行いましたか？

⇒人部会の回数が予定よりかなり増えた、自然部会は現地見学にも一緒に行えた

- ・活発な議論のためにした工夫があれば、ご紹介ください

⇒PCM手法を用いてグループワークを行った

作業は保健所医師（松野、国吉）やコンサルタントと部会ごとに確認しながら進めた

- ・その他 策定組織に関する工夫

⇒企画課が中心になって進行管理、保健予防課、都市計画課、みどり推進課も参加

○現状およびニーズの把握

- ・地域の健康課題は明確に把握されていますか？

⇒保健所からのデータ提供あり（厚生労働多目的コホート結果より）

- ・そのために活用しているデータは？

⇒（狭義の健康以外の）データも集めた（都市景観等）

- ・住民のニーズは十分に把握されていますか？

⇒十分とは言えないが、人の部会でアルコールに関する調査を追加

既存の類似の計画や取り組みがかなりあり、そこからも収集・整理した

（みどりの推進計画、八重干瀬の調査、なども）

○住民や関係者との目的、目標の共有

⇒東京の大学からの勧めでヘルシーシティ風に作ることにしていた

とはいうもののイメージが十分でないので、高野先生、次いで保健所医師を呼んで話を聞いてイメージした。保健所にも目的を共有する場をいっしょに作ってもらった

3つの部会の代表と上部の策定委員会は当初はイメージを作るのに苦慮し、始まってからも数回集まりを持った

- ・計画策定の目的について十分話し合い確認しましたか
⇒PCM手法について、なぜこのやり方をとるかの確認が不十分だったかも
これまでの様々な計画が店晒し?になっているとの不満があったので、策定後の提言の扱いについてよく説明した
特に3部会の部会長は熱心であり、事務局と部会長の集まりもよく開催された

- ・目的等を共有するために工夫したことはありますか
⇒グループワーク、部会長作成資料、現地視察(自然の部会)
 - ・計画の策定過程での議論を住民や関係者に公開していましたか
⇒していない。

○ 計画の目標設定

- ・地方計画の目標設定は、独自性のあるものになっていますか?
⇒なっている。ヘルシーシティーズで環太平洋ブロック健康政策とも交流
狭義の健康問題だけでなく、「まちの健康」「自然の健康」をめざす
これまでの諸計画の主旨を糾合する
- ・貴自治体の目標設定の「うり」は何ですか?
⇒推進(出来る事業)をすぐやる! 全部会コマース、活動表(作業工程表)など 歴史と文化のウォーキングロードの整備と公表(アヤンツ:綾道)

○ 目標と事業の関連

- ・目標を達成するための事業が明確になっていますか?
目標と事業との関連を明確にするためにどのような作業を行いましたか?
⇒活動表を作っている → 関係者で共有
- ・事業実施にあたり、優先順位を検討して実施していますか?
⇒している。保健所と、部会で
- ・優先順位の検討はどのような根拠に基づいて、どのような手順で検討しましたか?
⇒すぐできる(インパクトのある)ものを優先。あと、関係課の予算にもよる

○ 具体的な取り組みの提示

- ・地方計画の取り組み内容や役割が住民・関係者ごとに具体的に示されていますか?
⇒示されている

<計画策定後の推進>

○ 取り組みのための基盤整備

- ・推進体制を構築する上で、大切にされたことは?
⇒推進協議会委員長等の人選

○ 環境整備

- ・地方計画の各目標分野には、健康づくりを支援する環境整備について記載がありますか?
⇒ある。そもそもまちの部会、自然の部会は環境整備が大きい。

○ 地方計画の周知

- ・地方計画や実施状況を、わかりやすく住民に周知していますか?

⇒ケーブルテレビにて健康ひらら21のコマーシャルを！ ロゴマーク 地元紙（2紙）の正月版に大々的に載せた。その他のタイミングにも掲載 様々な関連イベント（西会津との交流、地下水の全国会議、八重干瀬シンポジウム）、また都市計画としての表彰、国際会議参加、農林高校生が有機肥料の開発で国際的な賞をもらう、など認知は高い。市民も健康ひららという言葉は良く聞いている。

○地方計画の活用状況

- ・地方計画は、他の事業の計画や予算編成に活用していますか（予算への反映）
⇒かなり財政難であり、直接予算がこれをついたというものはない
- ・地方計画に基づく住民や関係者の活動を支援していますか（住民や関係者への支援）
⇒保健予防課を中心に、ウォーキングサークルの活動を支援している（もともと盛んだったが、長い間のリーダーを病死で失った。立て直すタイミングにおいて、新しい市民も募集した）
計画後、ウォーキングロードが整備・広く紹介されこれも積極的にアピールした。まちの部会の歴史文化ロードのマップも活用。
- ・地域自主組織の活動状況（活動数、活動内容）について把握していますか？
⇒ある程度把握している。部会長や部会メンバーが参加している団体を通して。把握した情報の活用や提供方法は？
⇒部会長の提案による。

<進行管理・評価・見直し>

○進行管理組織来年度宮古5市町村の合併が予定されているので、その準備として市庁舎内の書く施策をヒアリング、評価していく予定

- ・進行管理組織を設置し、進捗状況について把握していますか
⇒平良市の企画室に、健康都市班をつくり全庁体制の要としている
部会長を中心としたNPOを立ち上げ、推進の方策を話し合っている
- ・進行管理組織を構築する上で、大切にされたことは？
⇒健康ひららは、全市をあげての取り組みということを市長を中心に周知徹底
- ・進捗状況を把握するために行っていることは？
⇒

○データ収集、モニタリングシステムの構築

- ・評価指標について、データ収集の方法がありますか
⇒この辺は十分でない。ひとの健康部会は保健所の支援が大きい。まちの部会、自然の部会は収集すべきデータの項目が難しい。しかし、例えば八重干瀬への観光客のアンケートなど、活動を評価する調査も一部行っている。

○目標の見直し

- ・目標や評価指標について、見直しを行っていますか？
⇒まだこの段階に至っていないが、来年度の市町村合併に伴い若干の見直しの可能性あり

○個々の事業の評価と見直し

- ・どの範囲の事業について評価を行っていますか？
⇒すぐ出来る事業の推進が中心となっており、評価はこれからである。

- ・ 新規事業の開始だけでなく、既存事業の見直しを行っていますか

⇒ 既存の健康教育や健康相談に「マルチプルリスクファクター症候群」の概念を取り入れ、内容を一貫したものにしていく。また「肥満」と「アルコール・肝疾患」を優先すべき健康問題としたので、それに合わせた内容にしていく。

○ 環境整備に向けての取り組み

- ・ 食環境や運動環境の整備など、健康づくりを支援する環境整備に取り組んでいますか 取り組まれている環境整備の内容は？

⇒ ウォーキングロード他、道路・公園の里親制度、珊瑚礁（八重干瀬）保全など

- ・ 環境整備において連携している行政部局、関係機関・団体は？

⇒ 都市計画、生活環境、水産課など

<連携>

○ 計画策定や推進における連携への働きかけ

⇒ 本計画では企画部門が中心的に推進する部局となっており、保健担当課はむしろ連携をとられている立場。全庁的に取り組むが、その他都市計画、水産課などが主に活動。

- ・ 関係部局との連絡、調整が円滑に図れていますか？

⇒ ウォーキングロードとして、まちの健康部会で「アヤンツ：綾道」歴史ロードマップづくり、ボランティアガイドも養成された。

- ・ 関係機関・団体等との連携が円滑に図れていますか？

⇒ 「子ども達の食を考えるネットワーク会議」というNPOを立ち上げ、保健所、学校栄養士、在宅栄養士、開業医の先生と取り組みやすい活動について協議、講演会の開催などにつなげた。

あと森林組合、上水道企業団との連携などいくらでもある。

- ・ 連携を図るために行われている工夫は？

⇒ とにかく、「健康ひらら」というキーワードをつける。

- ・ 地域の健康づくりに向けて、企業と連携が図れていますか？

⇒ 企業とは言えないかも知れませんが、地元のケーブルテレビはコマーシャル作成、放映などでかなり意見交換、連携できている。地元紙2紙もかなり好意的に取り上げてくれている。

- ・ 産業保健との連携が円滑に図れていますか？

⇒ まだ明確なものはない。

- ・ 住民組織、ボランティア、NPO等との連携が円滑に図れていますか

⇒ 既述、「子ども達の食を考えるネットワーク会議」

◎ [個々の保健事業のプロセス評価項目のリスト]

「八重干瀬調査とサンゴ礁ガイド養成事業」について

○ 事業のねらいが地域の実情にてらしあわさって明確にされているか

- ・ 事業により改善すべきQOL・健康指標や生活習慣の指標が明確になっていますか？

⇒ サンゴ礁の被害の現状について明確な指標がないのが問題とされ、調査が行われた。

- ・ 保健福祉計画の目的や目標との関連が確認されていますか？

⇒自然の健康部会に明記

- ・各保健事業目的について、実施要綱などでどこまで明確に記載されていますか？

⇒ガイドライン (別添) などが参考になる

○事業目標の明確さ

⇒ガイドライン (別添) などが参考になる

- ・当該事業により、改善すべき指標 (本人の知識・技術・態度, 周囲の支援, 社会資源などの環境) が明確になっていますか？

⇒そうはなっていない。

- ・事業の実施に当たり、事業目的や目標とその現状をどう把握していますか？

⇒サンゴ礁調査と観光客アンケートで把握

○事業目的・目標の共有

- ・事業目的や事業目標について、どの範囲の人達と確認していますか？

⇒市民シンポジウムで確認 (沖縄県宮古支庁、平良市、伊良部町、社団法人宮古観光協会、宮古フェリー株式会社、合資会社はやて海運、平良市漁業協同組合、池間漁業協同組合、市民ボランティア「サンゴ礁ガイド」経験者有志)

- ・事業目的や事業目標の現状について、どの範囲の人達と確認していますか？

⇒既述したメンバー、一般市民

- ・事業が適宜、目的・目標に照らしあわされて評価・見直しができているか

⇒ボランティアガイド養成については、プロセス評価を一部実施
開催回数を少なくする、開催時間を工夫するなど

=====

先進地調査地域 沖縄県糸満市役所

回答者：糸満市市民部保健予防課 渡慶次 英子課長（保健師）
糸満市市民部保健予防課 金城 美香（保健師）
糸満市市民部保健予防課 （保健師）
沖縄県南部福祉保健所企画課 新垣 志乃（医師）

報告者 ヘルスプロモーション研究センター
藤内 修二

調査時期 平成16年12月28日

◎ [健康日本21 地方計画の策定・推進プロセス]

調査の視点（ポイント）

<計画策定プロセス>

○策定組織

⇒策定委員会, 5つの専門作業部会, 庁内関係課会議

・策定組織には, 必要な関係者が含まれていましたか?

⇒3師会は策定委員会に

・策定組織には, 住民が含まれていましたか? 特に, 重要と考えた住民組織・団体は?

⇒保健推進員, 食推, 母子保健推進員,

・策定組織では, 検討や議論等を活発に行いましたか?

⇒保健所医師と作業の確認

スタッフがファシリテーターとして機能できるように予行演習を

(保健所は組織として支援体制を構築し, 3名の保健師が参画)

⇒グループワークを取り入れた

健康についての困りごとを出してもらい, MIDORIモデルに落とし込む

計画書の42~45ページ 優先順位も検討をして目標を絞り込む

・その他 策定組織に関する工夫

⇒MIDORIモデルの活用

○現状およびニーズの把握

・住民の本音を聞き出す(把握する)工夫

⇒実態調査は保健所と一緒に検討した 96問 MIDORIモデルに基づいて構築

専門作業部会での市民との議論の前に調査を実施

国保の調査と一緒にするために実施時期を早めることになった

・地域の健康課題は明確に把握されていますか? そのために活用しているデータは?

⇒年齢調整死亡率(自殺, 肺癌が多い), 健診結果, 要介護認定

第3回専門作業部会で示し, 健康課題などの絞り込みを行った

・住民のニーズは十分に把握されていますか? 住民ニーズを把握するために行った工夫

⇒健康についての困りごとを第1回専門作業部会で市民代表に尋ねた

・日常活動を通じてのニーズ把握への取り組み状況など

⇒教室参加者に対するアンケート(今後, どんなことがあったら良いですか?)

○住民や関係者との目的、目標の共有

- ・計画策定の目的について十分話し合い確認しましたか
⇒使える計画にしよう！飾られる計画ではなく・・・
市民と一緒に作ろう！
積極的な健康づくりが必要である 介護保険料も高い、医療費も高いし・・・
- ・計画を立てることへの主体的なモチベーション向上のための工夫
⇒地域保健推進特別事業をとった 平成13～15年度
市の中では補助金を取れたことが、策定や推進にプラスに作用
- ・計画の策定過程での議論を住民や関係者に公開していましたか
⇒策定途中に公開をしなかった

○計画の目標設定

- ・地方計画の目標設定は、独自性のあるものになっていますか？
貴自治体の目標設定の「うり」は何ですか？
⇒5つの領域を設定 生活習慣に関する領域に絞った
市民との話し合い出で出てきた目標を設定した

○目標と事業の関連

- ・目標を達成するための事業が明確になっていますか？
- ・目標と事業との関連を明確にするためにどのような作業を行いましたか？
⇒ワークシートを活用して、目標や条件ごとに既存の事業や今後の事業を整理
具体的にいつから取り組むといった検討までは策定段階でできなかった
- ・事業実施にあたり、優先順位を検討して実施していますか？
- ・優先順位の検討はどのような根拠に基づいて、どのような手順で検討しましたか？
⇒策定の段階で、既存の保健統計、実態調査による生活習慣の実態から優先順位を検討。重要度（効果）と実現可能性の2つの軸で優先順位を領域ごとに検討
更に、推進の段階でも健康課題の優先順位を検討した
市民の健康実態を示すデータを見せて、住民組織のメンバーが3人ずつ意見を聞く
意見に基づいて、優先順位をつけてもらい、それを集計して決定した
第1～4位の健康課題についてライフステージごとの取り組みの整理
その取り組みについて事業評価を行い、今後、拡大するもの、縮小するものを明確にしていた

○具体的な取り組みの提示

- ・地方計画の取り組み内容や役割が住民・関係者ごとに具体的に示されていますか？
⇒計画書にも記載されているが、いつから、どのように取り組むかが少し弱い

<計画策定後の推進>

○取り組みのための基盤整備

- ・推進体制をご紹介ください 推進体制を構築する上で、大切にされたことは？
⇒既存の組織を活用し、健康づくり地域ネットワーク連絡会をH14年に立ち上げ
健康づくりに関わる6組織 → 健康課題についての聞き取り調査に活躍
食推、母推、保健推進員、生活研究会、体育指導員、地域生活支援センター

美ら願寿いとまんプロジェクト (庁内23課と高等学校)

28人に市長名で委嘱 月に2回 合計22回 (順天堂大学の支援)

15年度1年間のみプロジェクトチームで推進について検討

優先順位, 唱道の方法の検討, 事業評価について検討

健康づくり推進協議会 関係機関, 団体の代表から構成されている

出身母体で, 推進についての検討は, まだできていない

健康づくり推進協議会の下に専門部会を置いた (計画策定に関わった専門職)

健康運動指導士, 歯科衛生士, 医師, 栄養士, 精神保健福祉士, 保健師)

○環境整備

- ・地方計画の各目標分野には, 健康づくりを支援する環境整備について記載がありますか?

⇒「安心して歩ける歩道がある」

保健推進員が自分の地区のウォーキングコースを調べているところ

運動公園の外周を夜間でも歩けるようにする (建設課の取り組みとして記載)

- ・環境整備の目標の検討に当たって, 力を入れたことは?

⇒美ら願寿いとまんプロジェクトで各課の連携ができるようになった

健康づくりに関する各課の事業の確認はできたが, 環境整備についての議論はなかった。

今後, 各課がどう取り組むかについてのフィードバックはこれから行う予定

○地方計画の周知

- ・地方計画や実施状況を, わかりやすく住民に周知していますか?

⇒概要版を作成し, 各種団体への会議や講義のときに配布している

全戸配布の健康カレンダー (保健事業日程表) に計画を紹介 (H14・16年度)

プロジェクトメンバーが市民3人に生活習慣についてグループインタビューを行った

こうしたグループインタビューも計画の「唱道」につながった

唱道の方法についてはプロジェクトメンバーが提案

庁舎内ロビー展示 パネル展示, ポスター展

市長からのチェーンメールで, 健康いとまん21についての職員の啓発

「FMたまん」で紹介 毎日3回, 週代わりの原稿で糸満市の健康の現状を伝える

ホームページを作成中 (保健予防課で作成中)

○地方計画の活用状況

- ・地方計画は, 他の事業の計画や予算編成に活用していますか (予算への反映)

⇒「ない軸は振れない」状況であり, 地域保健特別事業の補助金を活用した

平成15年度に優先順位を検討し, 縮小する事業や休止する事業も明確になった

スクラップ&ビルドをめざす

- ・地方計画に基づく住民や関係者の活動を支援していますか

⇒健康づくり地域ネットワーク連絡会の立ち上げ

寝たきり予防モデル地区における取り組み 4地区 (以前からの指定あり)

保健ボランティアと一緒に, 考えてもらうようにした

→ 受診率アップに向けての取り組み (地区でチラシを検討) 受診率アップ
健診の前に健康講演会をやった地区も
運動習慣を定着させようという地区も

- ・地域自主組織の活動状況 (活動数, 活動内容) について把握していますか?
⇒ 推進事業の中で, 各種団体の取り組みもリストアップ
把握した情報の活用や提供方法は, 庁内には報告書の中で返す予定
住民組織・団体へのフィードバックはこれから

<進行管理・評価・見直し>

○進行管理組織

- ・進行管理組織を設置し, 進捗状況について把握していますか
⇒ 進行管理組織として, 健康づくり推進協議会 (既存の組織) の下に体制を整備
進捗状況を把握するため目標達成のための事業評価を平成 15 年度に実施

○データ収集, モニタリングシステムの構築

- ・評価指標について, データ収集の方法がありますか
⇒ 肥満率の推移は, 健診データで把握されている
健診データは毎年集計, 生活習慣については 5 年後の平成 18 年度に予定
この他, どの事業でどんなデータが得られるかを整理している (平成 16 年度)
- ・収集されたデータの公表や情報提供はどうされていますか?
⇒ コミュニティ FM の「FM たまん」で健康の実態について市民に伝えている

○目標の見直し

- ・目標や評価指標について, 見直しを行っていますか?
⇒ ライフステージごとの目標やその条件について検討を行った
策定の際に自分が担当した領域の目標の検討に限られたことが反省
ライフステージごとの検討により, 領域間の目標の関連も確認できた

○個々の事業の評価と見直し

- ・目標に基づいて, 個々の事業の評価を行っていますか
どの範囲の事業について評価を行っていますか?
⇒ 保健予防課だけでなく, 他の部局の事業についても行った
- ・事業評価の方法は?
⇒ 事業評価シートの活用
- ・事業評価において大切にしていることは?
⇒ 事業のプロセス (ニーズの把握, 住民の参画, 連携状況) もきちんと評価した
- ・事業評価に関わっているのは誰ですか?
⇒ 各部局の職員 (美ら願寿いとまんプロジェクトのメンバー)
- ・新規事業の開始だけでなく, 既存事業の見直しを行っていますか
- ・計画の策定・推進に伴い, 見直された事業は?
⇒ 拡大: 市民健診
見直し: 健診の結果説明会, 健康スリム教室, 健康講演会, 乳幼児健康診査
縮小: 市役所ロビー相談業務, 市場健康相談

休 止：個別健康教育，水中ウォーキング教室

- ・見直しの際の視点や大切にすることは？

⇒計画に掲げられた目標の達成にどれくらい寄与できるか

○環境整備に向けての取り組み

- ・食環境や運動環境の整備など，健康づくりを支援する環境整備に取り組んでいますか

⇒保健推進員が自分の地区のウォーキングコースを調べているところ

運動公園の外周を夜間でも歩けるようにする（建設課の取り組みとして記載）

<連携>

○計画策定や推進における連携への働きかけ

- ・関係部局との連絡，調整が円滑に図れていますか？

⇒美ら願寿いとまんプロジェクト（庁内23課と高等学校）（平成16年度1年間）

プロジェクト会議に出席できない職員も検討内容を伝えた

- ・関係機関・団体等との連携が円滑に図れていますか

⇒それぞれの組織団体における計画推進における具体的な検討はこれから

- ・地域の健康づくりに向けて，企業と連携が図れていますか？

⇒コミュニティFM「FMたまん」による計画の唱道

- ・住民組織，ボランティア，NPO等との連携が円滑に図れていますか

⇒既存の組織を活用して，健康づくり地域ネットワーク連絡会をH14年に立ち上げ，

健康づくりに関わる6組織 → 健康課題についての聞き取り調査に活躍

◎ [個々の保健事業のプロセス評価項目のリスト]

【健康スリム教室について】

○事業目的の明確さ

- ・事業により改善すべきQOL・健康指標や生活習慣の指標が明確になっていますか？

- ・保健福祉計画の目的や目標との関連が確認されていますか？

⇒プロジェクトにおいて、健康いとまん21の計画実施メニューとして整理した。

健康いとまん21との照らし合わせ：健康指標（身体活動・運動）1 肥りすぎの割合減少2

高血圧の割合減少3 高コレステロールの割合減少4 骨関節症受診率の減少

（栄養・食生活）1 肥りすぎの割合減少2 虚血性心疾患死亡率の減少3 高血糖異常率の減少

（飲酒・喫煙）

1. 酒による肝機能異常の割合減少

2. ストレスを自分で解決できる人増加

- ・各保健事業の目的について，実施要綱などでどこまで明確に記載されていますか？

⇒実施要綱に記載されている内容：生活習慣をふり返り、自分にあった生活の過ごし方をみつけ、健康を考えるきっかけとする。

○事業目標の明確さ

- ・各保健事業の目標について，実施要綱などでどこまで明確に記載するようにしていますか？

⇒教室実施後の数字の改善のみが目的ではない

① 肥満についての正しい知識を身につけ、肥満のリスクを知る。

② 自分自身の生活習慣をふり返る場とする。

③ 肥りにくい生活習慣を実践できる。

- ・当該事業により、改善すべき指標（本人の知識・技術・態度、周囲の支援、社会資源などの環境）が明確になっていますか？

⇒参加者の知識の習得、参加者のやる気をおこさせる、参加者の技術の習得

○事業目的や事業目標についての現状把握

- ・事業の実施に当たり、事業目的や事業目標とその現状をどう把握していますか？

⇒目的に適した内容で、効果的な事業内容にするためにH16年度より（事業評価シート）により事業内容を見直した。

○事業目的・目標の共有

- ・事業目的や事業目標について、どの範囲の人達と確認していますか？

⇒プロジェクトメンバーの範囲で事業評価シートの内容を確認した。

スタッフ 課内職員 関係機関職員

- ・事業目的や事業目標の現状について、どの範囲の人達と確認していますか？

⇒プロジェクトにおいて事業評価シートの内容を確認した。

スタッフ、課内職員 関係課職員、関係機関職員、住民組織・団体

○過去の事業の評価

- ・当該事業のこれまでの評価を行い、その課題を明確にしていますか？

⇒課題として対象者、プログラム内容、評価方法があり、H16年度を見直した。

○事業に関する情報収集

- ・当該事業の実施に関する内外の情報をどの程度、収集、分析していますか？

⇒肥満に関する各種データ収集（健診結果、栄養調査等）

評価指標：参加者の受講前後の体重や形態の変化、参加のやる気と行動の変化、教室の出席率、参加者の知識の習得状況（クイズ、アンケート）→ これらも、単なる知識の習得だけでなく、保健行動につながると思われる3因子（強化因子含む）を聞いている。

○関連事業との連携

- ・当該事業と関連のある他部局・機関の事業との連携をどうとっていますか？

⇒肥満の解消につながる庁舎内事業、関係機関事業の整理はしたが、具体的にその担当課へ直接調整はしていない。現在作成中の報告書を配布しながら今後調整する予定。

○事業の企画への参画

- ・事業の企画にどの範囲の人達が参画していますか？

⇒課内のスタッフ（保健師、栄養士、ヘルスケアトレーナー）

アドバイザー順天堂大学公衆衛生学教室

○費用対効果の検討費用対効果についてはどこまで詳細に検討されていますか？

⇒事業に要した費用、参加者数から効果がありと評価している。

← 事業評価シートより

○対象者への広報

- ・選定された対象者に参加を呼びかける際にはどのような広報を行っていますか？

⇒健診結果にチラシを同封し再マークをつけた、市の広報誌に掲載、地元FM局からの広報をしている。

電話申込制とし、本人のやる気を確認している。

○参加者のニーズの把握

- ・参加者の個々のニーズを事業内容に反映させるためどのような工夫をしていますか？

⇒参加動機を初回に確認している。毎回教室終了後に参加しての感想を聞いている。次回に生かせるようにしている。また個別対応の必要なケースへも教室とは別の場で面接している。最終回には、教室全体の意見要望をアンケートで聴いている。

○人材の最適配置

- ・関わる職員の専門性が発揮できていますか？

⇒発揮できている。運動はヘルスケアトレーナーが、食事に関しては栄養士が、それぞれ担当し、次回へつなぎをつけながら運営している。毎回スタッフは参加している。

健康資源の有効活用と連携・・・事業の実施を通じて、地域資源の有効活用や関係機関等との連携が図られていますか？

○地域の資源の有効活用

- ・地域の資源（人的資源を除く）が有効に活用できていますか？

⇒できている。運動に関して、願寿館運動教室への紹介している。

○関係機関との連携

- ・事業の実施にあたり、関係機関との連携ができていますか？

⇒できていない。やっていない。

○住民組織・団体との連携

- ・事業の実施にあたり、住民組織・団体との連携ができていますか？

⇒できている。食事に関して、食生活改善推進員のヘルスサポーター養成講座へ紹介している。

○事業への協力者の満足度

- ・協力してくれた関係機関職員、住民組織・団体のメンバーの満足度をどうですか？

⇒満足していると思う。参加者が教室以外の行き場、相談場所になっていてと思うため（そう答えていた）。

<住民参加 住民の主体性の推進・確保>

○参加者の役割

- ・事業を実施するうえで、参加者自身にどのような役割がありましたか？

⇒知識に関する講義のあと宿題として、次回までに自分が取り組みそうなことを書いている。そのことを次回にグループで報告している。

○参加者の自己決定

- ・事業内容や自己の目標の決定に関する参加者の態度はどのようなものでしたか？

⇒目標の設定が高くなりすぎないように、挫折感を感じないように、目標の立て方について講話を入れている。達成感ややれそうという思いをもてたと思う（スモールステップの設定）。

○参加者の満足度

- ・事業への参加者の主観的な満足度はどうですか？

⇒最終回にアンケートで聞き取りした。

○参加者の変化

- ・参加者の変化（生活習慣、健康状態、エンパワメントなど）はどうですか？

⇒最終回アンケートで聞き取りした。

事業実施者の自己評価

⇒最終回アンケートとクイズに答えて知識の理解を確認できた。

○事業に関わったスタッフの手ごたえ

- ・スタッフの手ごたえをどうですか？

⇒今年度、目的目標に合った事業でかつ効果的な事業としてのプログラムを試行錯誤で実施している。ほぼこのプログラム内容で確立していく予定。

○事業効果の評価

- ・事業の効果を評価する仕組みが組み込まれていますか？

⇒事業終了後と年度末に事業評価シートを活用し、評価していく予定。具体的な評価方法はこれから決める。

=====

先進地調査地域 山口県岩国市保健センター

報告者 山口県立大学看護学部予防医学

中本 稔

調査時期 平成17年1月

◎ [健康日本21 地方計画の策定・推進プロセス]

調査の視点 (ポイント)

<計画策定プロセス>

○策定組織・

- ・策定組織には、必要な関係者が含まれていましたか？

⇒ 概ね網羅されている。

策定委員会メンバー 3師会、食推、母推、体協、産業保健、大学

民生児童委員協、婦人会連合、老人連合、自治会連合

語る会、庁内ワーキングの3本立て

- ・策定組織には、住民が含まれていましたか？ ⇒ はい

特に、重要（必要不可欠）と考えた住民組織・団体は？

⇒ 語る会は9グループ（高校生、専門学校生、自治会、子育てG、介護職G

岩国工業クラブ、健康体操クラブ、食推、長寿大学OB）

- ・策定組織では、検討や議論等を活発に行いましたか？ ⇒ はい

⇒ 語る会が健康まつりで発表できた。ケーブルTVに出演した。

- ・活発な議論のためにした工夫があれば、ご紹介ください

⇒ 保健師がグループワークを進めた。

- ・その他 策定組織に関する何らかの工夫をしましたか？ ⇒ はい

⇒ 年数回の策定委員会の間に、語る会での議論をしっかりと進めた。

○現状およびニーズの把握

- ・地域の健康課題は明確に把握されていますか？ ⇒ はい

- ・そのために活用しているデータは？

- ・計画に反映できる継続的にモニタリングしている情報はありますか？

⇒ 老人保健・地域保健実績報告、国保レセプト情報、

介護保険モニタリング目的の訪問指導時のアンケート（保健師・PT・OTによる聞き取り）

- ・住民のニーズは十分に把握されていますか？

⇒ 充分とは言えないかもしれないがそれなりに

- ・住民ニーズを把握するために行った工夫は？

⇒ 既存データの活用と住民代表の語る会（9グループで議論）

- ・ 日常活動を通じてのニーズ把握への取り組み状況などしていますか？

⇒ はい

保健師の地区活動において、地区組織からの情報収集

○住民や関係者との目的、目標の共有

- ・策定を進める以前に計画策定の目的について十分話し合い確認しましたか

⇒ はい

- ・目的等を共有するために工夫したことはありますか
⇒ スーパーバイザーによる研修会、健康まつりの発表会
- ・計画の策定過程での議論を住民や関係者に公開していましたか ⇒ はい
公開の方法は？
⇒ 健康まつりでの発表会 パブリックコメントの募集

○ 計画の目標設定

- ・国の健康日本21の受け売りにならない工夫をしましたか？ ⇒ はい
- ・目標設定のためのプロセスを特に重視しましたか？ ⇒ はい
- ・地方計画の目標設定は、独自性のあるものになっていますか？ ⇒ はい
貴自治体の目標設定の「うり」は何ですか？
⇒ いきいき（体づくり）、わくわく（輝くこころ）、にっこり（仲間）の3本柱
頭をとると「い わく に」になります。
策定に関わった語る会が、実行する会になります。

○ 目標と事業（手段）の関連

- ・事業実施自体を目的とせず、目的実現のための手段として位置づけていますか？ ⇒ はい
- ・目標を達成するための手段としての事業として明確になっていますか？
⇒ はい
- ・目標と事業との関連を明確にするためにどのような作業を行いましたか？
⇒ 語る会でのグループワークと、保健師間の意思統一
庁内ワーキングでの協働作業
- ・事業実施にあたり、優先順位を検討して実施していますか？ ⇒ はい
- ・優先順位の検討はどのような根拠に基づいて、どのような手順で検討しましたか？
⇒ 取り組みやすさ（今でもある程度取り組まれているもの、楽しいものなど）

○ 具体的な取り組みの提示・・・

- ・あり方論に終始せず具体的な取組みが明記されていますか？ ⇒ はい
計画が具体的な取組みに繋がることを意識していますか？ ⇒ はい
- ・地方計画の取組み内容や役割が住民・関係者ごとに具体的に示されていますか？
⇒ ある程度示されている
- ・取組み内容をより具体的に示すための工夫があれば、ご紹介ください
⇒ 各種団体には、既存の活動を見直してもらった。

<計画策定後の推進>

○ 取り組みのための基盤整備

- ⇒ これからではあるが、整備する
推進部会（市民部会と行政部会の2本立て）
- ・推進体制を構築する上で、大切にされたことは？
⇒ 各種団体のできること、意見を充分聞いた

○ 環境整備

- ・地方計画の各目標分野には、健康づくりを支援する環境整備について記載がありますか？

⇒ はい 行政の役割としてはある。

・環境整備の目標の検討に当たって、力を入れたことは？

⇒ 推進部会でこれから検討するが、各種組織や団体の支援が基本？

○地方計画の周知

・地方計画や実施状況を、わかりやすく住民に周知していますか？

⇒ ホームページ、市広報、ケーブルTVなど活用して広く広報している。

○地方計画の活用状況

・地方計画は、他の事業の計画や予算編成に活用していますか（予算への反映）

⇒ はい

地方計画に基づいて、予算の獲得がどれくらい容易になりましたか？

⇒ 今年できたので、これからだが、市長や部長は推進姿勢。

・地方計画に基づく住民や関係者の活動を支援していますか

⇒ 語る会の1つ、ある自治会の取り組みはケーブルTVでも放送され、

他の自治会への波及効果も出ている。

同じく、ある校区の婦人会の取り組みもわくわくとにっこりがつながっている。

ケーブルTVのディレクターは関心をもっており、継続して放送してくれそう。

10月には推進大会を予定。

・地域自主組織の活動状況（活動数、活動内容）について把握していますか？

⇒ 普段の保健活動で得る。社会福祉協議会や生涯教育課との情報交換など

把握した情報の活用や提供方法は？

⇒ これから考えるが、ケーブルTVも活用したい。

<進行管理・評価・見直し>

○進行管理組織 ⇒これからです

・進行管理組織を設置し、進捗状況について把握していますか ⇒これからです

・進行管理組織について、ご紹介ください

⇒ 市民部会（各種団体、組織）と行政部会

・進行管理組織を構築する上で、大切にすることは？

⇒ 市民部会には既存の組織だけでなく、これからできるものが

まちづくりに参加できるように想定している

行政はすべての課の名前をあげている。

・進捗状況を把握するために行っていることは？

⇒ 推進部会でこれから決める。

○データ収集、モニタリングシステムの構築

・評価指標について、データ収集の方法がありますか ⇒ はい

データ収集を行っている項目は？

⇒ 推進部会で決める 単年度ごとのデータ収集を考えている。

・データ収集における関係機関や住民組織・団体の関わりは？

⇒ 市民部会でしっかりかかわってもらう

・収集されたデータの公表や情報提供はどうされていますか？

⇒市広報、HP、ケーブルTV

○ 目標の見直し

⇒ 予定ではあるがこれから (以下省略)

○ 環境整備に向けての取り組み

- ・ 食環境や運動環境の整備等、健康づくりを支援する環境整備に取り組んでいますか？

⇒ はい

- ・ 取り組まれている環境整備の内容は？

⇒ 体育指導員の計画へ関わる

食推の朝食調査

自治会の公園が、住民参加の視点でよみがえるなど

- ・ 環境整備において連携している行政部局、関係機関・団体は？

⇒ 庁内組織のワーキング(行政部会)

<連携>

計画策定や推進における連携への働きかけ

- ・ 関係部局との連絡、調整が円滑に図れていますか？

⇒ はい

体育指導員協議会の取り組みがスポーツ振興課を動かした。

関係機関・団体との連携

- ・ 関係機関・団体等との連携が円滑に図れていますか ⇒ はい

企業との連携

- ・ 地域の健康づくりに向けて、企業と連携が図れていますか？ ⇒ はい

- ・ 連携ができていること端的に物語る事例があればご紹介ください。

⇒ 市内のコンビニート工場の総務担当課長が集まる「工業クラブ」が

語る会に入ってくれて、働き盛りの健康問題を考えてくれた。

産業医ではなかなか変えることができない企業の健康観を、事業主の立場で変えようとする画期的な取り組みになりそう。

住民組織との連携

- ・ 住民組織、ボランティア、NPO等との連携が円滑に図れていますか ⇒ はい

- ・ 連携ができていること端的に物語る事例があればご紹介ください。

⇒ 子どもが少ない自治会が、まちづくりの視点で取り組み始めた。

校区婦人会の集まりで、輪がひろまっている。

介護予防教室のOBが、山間部の地区で独自に活動を始めた

- ・ 連携を図るために行われている工夫は？

⇒ 住民活動の支援の視点

=====

先進地調査地域 岡山県清音村役場

面接者 清音村役場健康福祉課 管理栄養士 高橋伸悟
保健師 篠田絵里
香川大学医学部看護科 講師 真鍋芳樹

報告者 愛媛大学病院医療福祉支援センター
櫃本 真聿

調査時期 平成16年12月

◎ [健康日本21 地方計画の策定・推進プロセス]

調査の視点 (ポイント)

<計画策定プロセス>

○策定組織

⇒今回の計画策定においては、計画を作ることではなく、計画を作っていくうえでの過程を大切に、計画策定にかかわる住民と行政がお互いに信頼関係を築いていく中で、一人ひとりのエンパワメントをしていくように考えた。そのため、行政案を示すのではなく、住民とともに「これからも住み続けたいと思える清音村」をめざし、お互いの思いを重ねあい、お互いが無理なくできる役割を見つけ、行動できるように考えた。

・策定組織には、必要な関係者が含まれていましたか (概ね網羅されている) ?

⇒行政においては、計画策定当初から総務課・住民課・建設課・産業課・税務課・教育委員会から1名ずつ参加をしてもらった。

・策定組織には、住民が含まれていましたか? 住民委員の選抜方法

⇒今回は、日頃の生活の視点に立って話し合いを進めていくことを考えていたため、住民には組織代表として参加をしてもらうのではなく、一般住民の立場で参加をしていただいた。募集については、一般公募において勧誘した。

・策定組織では、検討や議論等を活発に行いましたか?

⇒住民と行政ともに、本音で語り合うことが出来た。それは、お互いが思いを語りやすいように、会議当初に相手の意見を否定しないということを前提として話し合ってきたこととなしえることが出来た。また、思いが語りやすい会議の雰囲気作りや住民一人ひとりの思いをきちんと受け止めるように行政が心がけることにより、住民からの要望や陳情ではなく、一緒に「これからも住み続けたいと思える清音村」を考えることが出来た。参加した住民からも、「こんなに思いが言える行政の会議はなかった」「自分達のことだから考えていこう」という言葉があった。

○現状およびニーズの把握

・地域の健康課題は明確に把握されていますか?

⇒香川大学真鍋先生の協力のもと、平成13年度から平成14年度にかけて、20歳から79歳までの全住民を対象に健康づくりに関するアンケート調査を実施した。また、清音村で実施している総合健診の健診結果を分析し、健診データから見える課題も把握している。

・住民のニーズは十分に把握されていますか?

- ・ 日常活動を通じてのニーズ把握への取り組み状況などしていますか？
⇒ 日常業務すべてにおいて、住民と接する中で、一人ひとりの立場になって物事を考える中で、住民のニーズや日ごろの悩みなどをともに話すように心がけている。そこで、住民の声を大切にしよう心がけている。

○住民や関係者との目的、目標の共有

- ・ 計画を立てることへの主体的なモチベーション向上のための工夫
⇒ 職員それぞれが、他人任せになるのではなく、何のために計画策定をするのか、自分のこととして考えることが出来るように何度も思いを語り合い意識統一をしてきた。
- ・ 策定を進める以前に計画策定の目的について十分話し合い確認しましたか
⇒ 計画策定を始める前に、職員間では計画策定の目的や意義について何度も思いを語り合った。また、住民を交えての話し合いでは、ともに「これからも住み続けたいと思える清音村」をめざしていくことを話し合った。
- ・ 目的等を共有するために工夫したことはありますか
⇒ 話し合われたことを、わかりやすく図にまとめるとともに、自分達が何を目指していたのかを何度も振り返って確認するようにした。
- ・ 計画の策定過程での議論を住民や関係者に公開していましたか
⇒ 村の広報誌を利用し、話し合いの内容をPRしてきた。

○計画の目標設定

- ・ 地方計画の目標設定は、独自性のあるものになっていますか？
貴自治体の目標設定の「うり」は何ですか？
⇒ 今回の計画策定にあたり、職員間で「健康とは何か」「本当に住民の求めるものとは何か」を話し合ってきた。その中で、「生きがいや喜びを感じる暮らし」を実現していくことが、これからの健康づくりで目指すものだと考えた。この姿は一人ひとり異なるものであるとともに、自分ひとりで実現できるものではなく、家族や地域とかかわりがあったはじめて実現できるものだと考えた。しかし、健康日本21のような目標値設定では、一人ひとりにあった姿を実現していくものではなく、画一的な取り組みになってしまうと考えた。清音村では、一人ひとりにあった姿を実現できることを大切にしていこうと考え、あえて目標値の設定にはとらわれないようにした。

○目標と事業（手段）の関連

- ・ 目標を達成するための手段としての事業として明確になっていますか？
- ・ 事業実施にあたり、優先順位を検討して実施していますか？
- ・ 優先順位の検討はどのような根拠に基づいて、どのような手順で検討しましたか？
⇒ 今回の計画では、新規事業を盛り込むのではなく、「これからも住み続けたいと思える清音村」をめざして住民と行政がお互いに思いを語り合う中で、信頼関係を築き、ともに役割を持って活動していく中で、エンパワメントしていくことに重点を置いている。行政としては、現在実施しているすべての事業を見直し、目的達成につながる事業の再構築を図っている。

○具体的な取り組みの提示

- ・地方計画の取り組み内容や役割が住民・関係者ごとに具体的に示されていますか？ 取り組み内容をより具体的に示すための工夫があれば、ご紹介ください
⇒特に明記していない<計画策定後の推進>

○取り組みのための基盤整備

⇒推進体制は整備していない。

○環境整備

- ・地方計画の各目標分野には、健康づくりを支援する環境整備について記載がありますか？
- ・環境整備の目標の検討に当たって、力を入れたことは？
⇒「生きがいや喜びを感じる暮らし」の実現のためには、家族や地域とかかわりがあってはじめて実現できるものだと考える。すると、地域の中のあらゆる団体や個人と手を取り合って取り組む必要は明確である。そのため、日ごろより地域住民との連携を図り、人と人とのつながりができるように取り組んでいる。

○地方計画の周知

- ・地方計画や実施状況を、わかりやすく住民に周知していますか？
周知の方法、頻度、認知度の確認方法などについて、お教えてください
⇒計画書については、現在村が実施するあらゆる事業において周知徹底している。また、計画書を周知することに重点を置くのではなく、計画書に基づいて住民とともに考え、行動するようにしている。

○地方計画の活用状況

- ・地方計画は、他の事業の計画や予算編成に活用していますか（予算への反映）
⇒計画策定後の予算獲得への影響はあまりない。また、この考えで事業を実施していくと、従来のように一つの事業にかかる費用も削減が可能である。
- ・地方計画に基づく住民や関係者の活動を支援していますか
 - ・具体的な支援の方法や支援の例をご紹介ください
⇒すべての事業において、計画策定での考え方をもとに、住民一人ひとりの思いを大切にしながら取り組んでいる。具体的には、子育て支援事業において、行政側が行事を考えて参加者として住民に加わってもらうのではなく、住民とともに話し合う中で、事業を企画し、それぞれが役割を果たしながら実際に行うようにしている。
- ・地域自主組織の活動状況（活動数、活動内容）について把握していますか？
把握するために行っていることは？ ⇒おおむね把握している

<進行管理・評価・見直し>

○進行管理組織

- ・進行管理組織を設置し、進捗状況について把握していますか
⇒進行管理組織としては現在設置していない。

○データ収集、モニタリングシステムの構築

- ・評価指標について、データ収集の方法がありますか
- ・収集されたデータの公表や情報提供はどうされていますか？
⇒評価指標については、まだ現在のところ十分な検討が出来ていない。しかし、事業を推進していく中で、住民とともに何を目指し行動しているのかを確認することと、実施後の評価反省を行うようにしている。